

「職業奉仕こそロータリーの原点」

国際ロータリー第 2500 地区

パストガバナー

道 下 俊 一

最近のロータリー

皆さん、こんにちは。大金さん、非常にご丁寧なご紹介ありがとうございました。2500地区のパストガバナーの道下でございます。何か、地区も違いますし、この場にいることがなんか場違いのような感じもいたしますが、矢橋補佐、大金委員長とお話をしているうちに、お2人のロータリー観に非常にうたれましたし、共鳴するところが非常に多かったわけであります。特に、矢橋補佐はこのIMを昔のIGFと同じように朝からやりたかったという言葉に、私は感激をいたしました。快く今日のこの場に立たせていただいております。どうぞ、これから皆さんと30～40分になるかと思いますが、ロータリーとは何なのか、ロータリーの原点とは何なのか、今どんな状態になっているのかということをお話してあと、塚原パストガバナーに譲りたいと思います。私はこのごろ毎月送られてくるロータリーの友を見ると非常に恐れを抱くのであります。というのは、日本のロータリアンの数がどんどん減っております。2000年には1.2万人おりました。あっという間に10万人をきってきたのであります。

日本の地区は34あります。1地区は平均しますと、3000人弱でだいたい構成されていると思います。そうしますと、今10万を切ってきたということは、6、7つの地区がつぶれたに等しい数字なのであります。非常に大きな数字なのであります。私は、どうしてそういうふうになってきたのかということをお話ししてみたいと思います。今、ワースト5では、アメリカ、日本、ブラジル、インド、そんなことでワースト5に入っています。

2000年のラビッツァ会長は、ロータリーの衰退が始まっている、不況だけのせいではない。ロータリーが魅力をなくし、ステータスを失ったからだということをラビッツァ会長は言っておられるのであります。

ロータリーの魅力とは

ロータリーの魅力というのがなんであったか、異業種間の交流が最たるものであります。厳しいテリトリーがありました。1業種1人の会員制がありました。例会出席の義務、4回無断欠席は、退会とみなす。14段階の会員選考がありました。入会前のロータリー情報の徹底がありました。まさに、ロータリーはステータスだったのであ

りました。バッジ自体は、地区に、地域に認められた誇りでもあったのであります。入れていただいたロータリーであったのであります。

ロータリー魅力を失う

今、どうなってきたか。まず、魅力を失ったロータリーは、テリトリーはあって無きがごとし。職業分類は、1業種5人までいい、大きなクラブは10%までいい、例会も年4回休める。クラブ理事会が認めたイベントに参加したならば、それは出席とみなしていい。会員選考もおざなりになってきました。ただ、進歩は、女性会員が承認されたことぐらいでありまして、まさに、入れていただいたロータリーが入っていただいたロータリーになってきたという現状であります。そういうことになってきますと、I.G.F.が無くなってロータリーを語る、ロータリーを勉強する場が無くなってきました。だんだんロータリーを知らない会員が増えてきました。バッジをつけてから、そんなはずではなかった、退会者が続出しています。また、これはもうロータリーではない、ベテラン会員も退会していくのであります。一方最近の政治の不安でさらに社会の道徳の崩壊、商道徳を失った企業の不祥事が続発しております。北海道の中では、拓銀がつぶれました。世界のブランドであった雪印が信用を失いました。食肉

偽装をやった日本ハムの製品が一時、市場から消えました。また、国内では鳥インフルエンザの浅田農場はそれを隠し3ヶ月で廃業に追い込まれました。また、リコールを隠していた三菱自動車は莫大な損害を被りました。最近では、長い歴史でべこちゃんのお愛称で知られる不二家が多くの人々の信頼を裏切りました。テレビで頭を下げている経営者の胸にロータリーのバッジをつけている人が何人かいたということは、きわめて残念なことであります。ロータリー運動というのは、倫理運動であります。ロータリーの綱領をしっかりと書いてあるのであります。ロータリーの提唱する、職業倫理というのは、法律以上の高いレベルのものであります。職業人としてロータリアンである以上、職業倫理を実践していかなければならないのに、テレビで頭を下げている人たちの、企業の責任者は職業倫理を失った結果であります。職業倫理の責任は、それぞれの職場で仕事に携わる個人、あるいは、企業の中でそれぞれが分担している一人ひとりであります。事業経営者だけにあるのではなくて、専門職業人である、宗教家、教育者、医師すべてに要求されるものなのであります。したがって職業奉仕は他の団体にはない、ロータリーの金看板であり、ロータリーのバッジに我々は、誇りを持っていたのであります。

ロータリー変遷

ロータリーの変化は、83、84年度の私がガバナーノミネーとして、ボカラトンに行ったときあたりから始まっております。スケルトン会長でありました。彼は、人頭分担金の値上げを理事会に提案いたしました。否決されました。彼は会員増強でそれを補おうとしました。したがって会員増強を果たしたクラブに、会長賞をやるぞ、会員増強を果たしたガバナーには会長賞をやるぞと。その年は全世界の各クラブが1人以上の増強を果たしたのは確かであります。しかし、会員を増やしたから、ギブアンドテイクという発想は、ロータリーにあるのか。そういうことで、批判があったのもひとつあります。もうひとつ彼が我々、ロータリアンにダメージを与えたことがありました。それは、私たちがロータリーのバイブルといていた23の34の決議を彼は手続要覧から、消したのであります。私たちノミネーに手続要覧を示して、コンパクトになっただろう、見やすくなっただろう、自賛いたしました。しかし、パラパラッとめくりましたら、社会奉仕のところ、23の34はまったく景も形もなかったのであります。また、個人という語句もだいぶ削られておりました。私たちは猛然と抗議をいたしました。翌日大きな紙で告示がました。23の34の決議

は、手続要覧には載っていないが、生きている、そんな告示が出たのであります。しかし、それから何回も出たり消えたり、日本で言えば、平理事の時には、完全に消えたのであります。しかし、私たちは韓国のノミネーと一緒に、ガバナーと一緒に23の34の決議の復活を要望しました。92年、カンザスにおける理事会において92の286、「社会奉仕に関する声明」それを付記することで永久に存続するということのできたのであります。これは、どうしてRIが、23の34の決議を消したくなったか、それは後ほどお話ししたいと思います。ロータリーは100年になるのですから、時の流れの中で変わっていくことがあっても、当然だと思います。しかし、歴史の中で消してはならないもの、消えてはならないものがあるのも確かだと私は考えております。スケルトン会長の後、カンセコ会長、カドマン会長と続きますが、2人ともドクターでした。ロータリー創立100周年には、ポリオを全世界から撲滅しようということを提唱しました。時はバブルでした。ロータリアンはこれに共鳴して、予定以上のお金がすぐに集まったのであります。国際ロータリーは、終結宣言を出しました。今、シカゴにおける本部の前には、その接種をしている銅像ができております。しかし、ワクチンだけあれば、ポリオは撲滅されるものではありません。

ません。それを運搬することも必要です。ワクチンを保存しておく冷蔵庫も必要です。また、接種する人たちも必要なのであります。そうするとどうしても金が足りなくなってきました。今、まったく見られなくなった痘瘡も撲滅するのに200年かかっているのです。ポリオはそう簡単に撲滅することができるはずがないのであります。2005年にオークリッジで日米親善会議が開かれました。オークリッジ市政60周年でありました。オークリッジというのは、広島原子爆弾をつくったところでありました。日米の親善会議が伊藤義郎理事の主催で開かれ、私もモデレーターとして出席したのでありますが、そのときにケラー財務委員長が悲壮な顔をして立ち上がりました。ポリオの金が足りない。しかし、いまさら日本アメリカのロータリアンに再度寄付をお願いしたい、そういうことは、私は言えない。せめて、世界社会奉仕、また、クラブの善意によってなんとかこれを完遂したいということを、彼はそのときに言ったのであります。ポリオで多くのお金を必要としますし、また、時代の変遷で財団人道プログラム、教育プログラムが多様化して、これまた資金を多く必要とする状態になってまいりました。RIは、先ほど述べました、ロータリアンのステータスをほとんどなくして、会員増強と財団協力をロータリアンの本筋の

ように、私たちに呼びかけしてきたのであります。入れていただいたロータリアンが、入っていただいたロータリアンになり、IGFがなくなり、ロータリアンを解らぬ会員が増えてきたのも事実であります。ガバナーの公式訪問でこの2つを言っていればそれでガバナーの責務が完遂できるという状態も出来上がりました。ロータリアンの哲学、ロータリアン理論を語るガバナーも少なくなってきました。私たち、古いパストガバナーは広島であったと思うのですが、ガバナーたちと懇談をして、せめて、ロータリアンの哲学、理論ぐらいは、あなた方、公式訪問で話せよということをお願いしたこともあったのであります。ロータリアンは魅力を失ってまします会員減少につながってきたのであります。

職業奉仕は生き返るか

そんなときに、ピチャイ会長が、タイから出てきました。私は、今までの歴史の中でピチャイ会長というのは、100年の歴史の中で、名会長の1人だと思えます。ブリスベンの世界大会で職業奉仕を強調されました。私はその話を聞きながら、ロータリアンは生きる方向を見出した。そう思ったのであります。ロータリアンは原点に返れ。ロータリアンの原点、それは職業奉仕であるということを彼は強調しました。職業奉仕に徹するとき、ロータリアン

は強くなれる。ロータリーの発展はそこにある。彼は強い調子で私たちに呼びかけました。職業奉仕とは何か、答えは2つ。1つは、自分の職業を遂行するにあたって、奉仕の理想を立証することである。もう1つは、事業および専門職に携わるロータリアン以外の人に、奉仕の理想を証し、広めることであると言い切ったのであります。さらに100年になる歴史的な道標に達する今、我々は立ち止まって棚卸しをするとき、今まで、歩いてきた道、私たちが通り過ぎてきた一里塚を見直すときであります。ことにそれは、親睦、奉仕というロータリーの理想が国際的に認知されるにいたったことに、驚きの目を見張る機会となることでありましょう。私が特に申し上げたいのは、ロータリーに課せられ、もっとも重大な挑戦課題でありながら、その心をずっと無視されてきた案件があります。幾年も幾年も課題にならず、討論もされなかった挑戦課題、それは職業奉仕でありますということを彼は私たちに強い調子で呼びかけたのであります。ついで、サブ元会長、インドから出ておりましたが、91-92年の会長でありました。ロータリーは倫理運動である。ロータリーは他の人たちの職業を通じて大きな影響を与えることができる。自分の職業に高い倫理観を持つことをロータリーは求めているし、ロータリーは創立以来それを理

念としてきている。今、ロータリーの存在イメージを向上させるために、職業倫理の向上が問われている。自分の職業、又は、グループに対して高い倫理水準を維持できないときは、ロータリーを去れ、非常に厳しいことを私たちに投げかけました。さらに新入会員に必ず、職業奉仕を説け、職業奉仕こそロータリーの歴史であるからということをつけ加えました。私はプリズベンの研究会でパネラーをさせていただいたのですが、ピチャイ会長、サブ元会長のお2人に久方ぶりにロータリーを聞いた思いで痛感したものでした。そのあと、ジョナサン会長、エステス会長と職業倫理を強調され、パネラーをやらせていただき、ロータリーはなんとか、生き返るか希望を持ち始めたのであります。

職業奉仕の歴史

これから、後段に入ってまいります。1905年に創立されたロータリーが1906年に綱領を出しました。1つは、親睦であります。もう1つは、相互扶助であります。まもなく会員増強の中で地域のことも考えない、そんな団体が発展するわけがない。地域のことも考えなくてはということで、第3にシカゴ市の忠誠を加えたのであります。社会奉仕の概念が少しロータリーの中に、そのときに生まれております。たびたび改正されましたが、1951

年に今の綱領、私たちが手続要覧で見る綱領は、51年に改正されたままずっと続いているのであります。ということは、何かと言いますと、ロータリーは倫理運動であるという姿勢をぜんぜん崩していないのであります。

1908年には、すごい人が2人入ってきました。1人は、チェスレペリーであります。全米ロータリー連合を作りました。そして今の国際ロータリーを立ち上げたのであります。30年以上にわたって彼は、事務総長を務めました。退官するときに、名誉事務総長を贈ろうとしたときに、ロータリーは、役を去ったときには、1会員に過ぎないとして、彼は受けなかったのであります。ポールハリスは、私は土台を建てた、しかしその上に建物を建てたのはチェストベリーだと、大変な信頼を持っていたのであります。もう1人は誰か、シェルドンであります。シェルドンは親睦の中に、奉仕、他人への思いやり、そんなものがあるだろう、そういう心がある、He Profits Most Who Services The Best、サービスという言葉は初めて使ったのであります。そして、奉仕とは利互と利他との調和であると考えました。シェルドンの入会がなかったら、今日のように幅広いロータリーの論議は起こらなかったであろうと思っております。

1910年、コリンズが、先ほど丸

山ガバナーが言われました。Service Not Self を発表しました。これで、当初の互惠主義から脱して一般の人たちにその心を及ぼそう、他人への思いやり、奉仕ということの概念がここに出てきたのであります。1920年、Service above self に変わりました。このいきさつき、シェルドンが関係したとも言っていますし、いきさつきはあまり詳しく解っておりません。職業奉仕、そしてこの2つの標語は、資本主義社会で自由競争に打ち勝つためのノウハウであります。1929年の不況にロータリアンは一人も倒産しなかったという歴史も残っているのであります。シンガポールの規定審議会でコリンズの標語が第1位になりました。シェルドンの標語は第2位となりました。しかしシェルドンの標語は、RIは、消したくてたまらなかったのであります。したがって女性会員も出てきているのに、He は、おかしい、One だ They だと言っておりますが、He Profits というシェルドンの標語は、私はロータリーの歴史だと思って、ずっと He を使わせてもらっております。

1915年には、「全職業人を対象とする、ロータリー倫理訓」が発表されております。「道徳律」とも言います。65年にわたって、ロータリーの倫理形成に重要な影響を与えてきたのであります。その後のロータリー運動の核

であったのであります。IGFでは、常に道徳律を検討し討議したものであります。その文章の中で、黄金律という言葉がある。そういうことで、宗教的であるということ、1980年には、これは消されたのであります。

1915年、職業奉仕とは、ロータリアン自身の心の過程のことである、自己の職業を通じて自己の職業の倫理観を高め、他人への思いやりの心の状態を職業奉仕であるとガイガンディガーは「ロータリー通解」を表わしました。これがロータリーではじめての文献であったのであります。それと同時に、発表したときから、シェルドンのProfitsということが問題になっていたのですが、彼は、奉仕を実践するものは、自ら受益者でなければならぬ、信頼と信用、短い言葉であるが、それが職業奉仕であると言い切ったのでありますし、発表したときから問題であったシェルドンのProfitsについても、受益者であるということ、生まれてくる満足感とか、達成感とか、信用の精神面が利益より大きいと彼は弁護したのであります。

1923年に、23の34の決議が出てきました。初期ロータリーの社会奉仕の概念は先ほど、綱領3番目に出てきたということ、を言っておりますが、ほとんどそのプログラムは青少年プログラムであったのであります。雪の日の新聞売りの少年の話がその歴史

の1番初めに出てきておりますが、オハイオ州にダテアーデンというロータリアンがおりました。彼の子供が交通事故にあいました。不幸にして亡くなったのであります。もし、そのまま生きていたとしたならば、身障者として、多くの人たちの世話になったであろう。彼は、身障者問題にかけたのであります。全米のロータリアンがこれにこたえました。施設を作り、寄付を送り、学校を作り、非常に大きな奉仕を彼はしたのでありますし、全米の会長にもなったのであります。しかし、ロータリーの奉仕というのは、そんな団体で、そして金銭奉仕ではないはずだ。ポールハリスと、シェルドンは苦々しく見ていたのであります。年々その論争は激しくなってきました。23年、セントルイスの世界大会は、歴史上最も荒れた世界大会だったという歴史が残っております。そのときに、ロータリーは分裂するか、消滅するかという危機に直面したときに、ポールハリスは、ウィリアムマニアジュニア、ウィリアムウインドパークこの2人に命じて、1晩で書き上げて、34番目に出したのが、34号決議なのであります。何がその中に書かれていて、RIが消したかったかと言いますと、1つは、クラブに独立権があるということ、であります。そしてRIが何をやるどころかということが書いてあるのですが、それは、拡大と増強にRI

は力を入れるべきであると、そして各クラブに情報は提供する。しかし、各クラブが活動している中で、綱領に違反しなければ、決してこれを禁じたり命令したりすることはできないという条文だったのであります。それがだんだんだんだん先ほどお話ししたように、会員増強、財団協力がロータリーの本筋になってきたようなときに、RIは、これが邪魔になってきたのであります。したがって23の34を消したい。消えたり、出たりしてきたのであります。もう一つ、ポリオ以来財団の資源を必要としているプログラムが多様化して、RIの資金難で、会員増強、財団協力が本筋のようになって、ロータリーはどうしても、邪魔になってきた。また、昔はRIをセントラルオフィスといっていました。私たちのころは、中央事務局と言っていたのであります。いつの間にかヘッドクォーター、世界本部、司令部となってきました。私とそれから、大阪の、うちの地区にも、この地区にも、会長代理としてきた中島治一郎と、RIにこれを猛烈に抗議したのであります。セントラルオフィスに戻せ、ヘッドクォーター、司令部はこれになじまないと言ったのであります。RIの返事は、セントラルオフィスではパンチが効かないという返事だったのであります。命令したり禁止したりすることができないRIが、どうしてパンチを効かせ

る必要があるのか、そんなことを私たちはだいたい論議したのであります。RIはいまだに撤回しておりませんし、いつの間にか手続要覧では世界本部となっております。

1927年にクラブ奉仕、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕の4分類が確立しました。これが今、CLPであやふやになるということで、多きな論議がかわされているのであります。これは、あとのパネルディスカッションでよくお聞きになってください。

1928年に「ロータリー宣言」が出ました。大連クラブにいた古沢文作氏が作ったのであります。ロータリー綱領を英文で暗記しているうちに、そのリズムを日本語に訳したらどうなるのか。「大連宣言」とも言います。「須らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし、蓋し事業の経営に全力を傾倒するは、因って世を益せんがためなり。故に吾人は道義を無視して所謂事業の成功を獲んとする者に与せず」これだけでも頭に入れておけば、拓銀もつぶれなかったでしょうし、いろんな企業の経営者は、テレビで頭を下げることもなかったのだろう。この「大連宣言」の第1条の中に、ロータリーとは何か、そして職業奉仕とは何かということが、凝縮されていると私は思っているのであります。

1932年、倒産しかかった会社をハーバートテラーは「4つのテスト」

で救いました。52年にロータリーに寄付されました。資本主義競争は厳しいときに生まれ、そして生き残った言行に照らしての手法であります。これはロータリーの人類文化史に乗った最大の功績の1つであろうと、言っているのであります。

1987年、ケラー会長は、40年間、理事会で職業奉仕という話題は1つも提供されなかった。しかし今、政治的不安定、それから、社会道德の荒廃がスポーツまで及ぶということで彼は、職業奉仕委員会を立ち上げたのであります。しかし、出てきた「職業奉仕への声明」しかし、個人奉仕と言われていた職業奉仕がクラブもできるということになってきたのであります。何ができるのか。職業案内、職業斡旋、職業指導、そうすると、まるで職業安定所ではないのか。これも発表されましたが、不評だったのであります。それで、1989年、「ロータリアンの職業宣言」が出されました。これは、先ほどお話ししました。道德律に匹敵するもので、職業は、社会的責務である。職業倫理を基盤として、法律および道德を守ること、地域社会の質の向上、職業的努力の必要性、広告、ロータリアンとしての取引に関する倫理、そういうことを非常によく書いているのであります。IGFがIMとなって、これが、ロータリアンの中で論議されなかったことは、きわめて残念なことな

のであります。手続要覧に載っておりますから、よくお読みになってください。非常に中身は、道德律、今消えておりますが、非常にその流れをくんで、克明に職業奉仕が何なのかということが書いてあります。

そろそろまとめに入りたいと思いますが、ロータリー思想を学んで、自分の職業に誇りを持って職業倫理をロータリーの世界に生き返らせるには、今、10月の職業奉仕月間に会長も書きますが、「4つのテスト」「ロータリアンの職業宣言」を強調されます。しかし、「4つのテスト」は言行に照らしての手法であって、実践の行動パターンそのものにはなりえないのであります。ハーバードテラーの弁護士は、これを作ったときに、私がこれを忠実に守ったのなら、私は餓死するであろうというぐらい、内容の厳しさをもっているのであります。「ロータリーの綱領」それから「道德律」「23の34号決議」「大連宣言」までさかのぼって職業奉仕の概念をしっかりと把握しなければならぬと私は考えております。ロータリーとは何か、ロータリーの原点とは何か、私たちは自ら実践し、語り継いでいく責任があると思うのであります。皆さん、もう一度、ロータリーを生き返らそうではありませんか。ありがとうございました。